

羽田発着枠配分基準検討小委員会ヒアリング
～当社の基本的な考え方について～

2 0 2 4 年 4 月 1 6 日



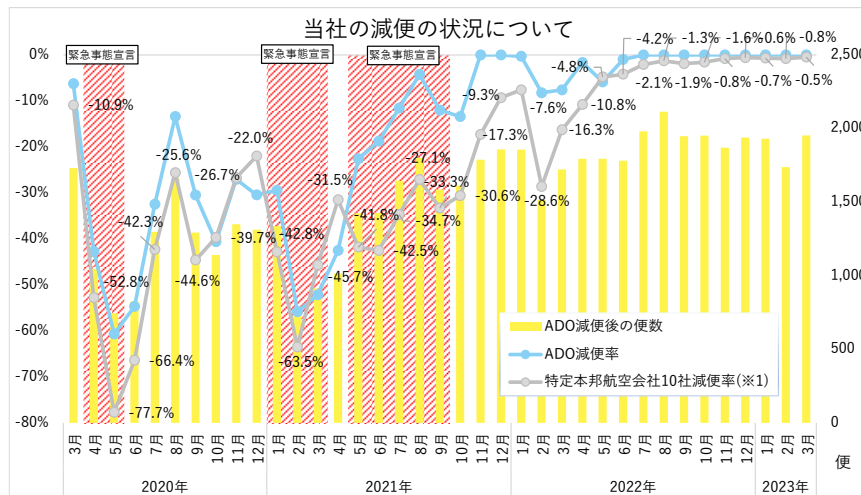
コロナ禍が、航空会社の経営、競争状況や航空ネットワーク網に与えた影響及び回復に向けた対応



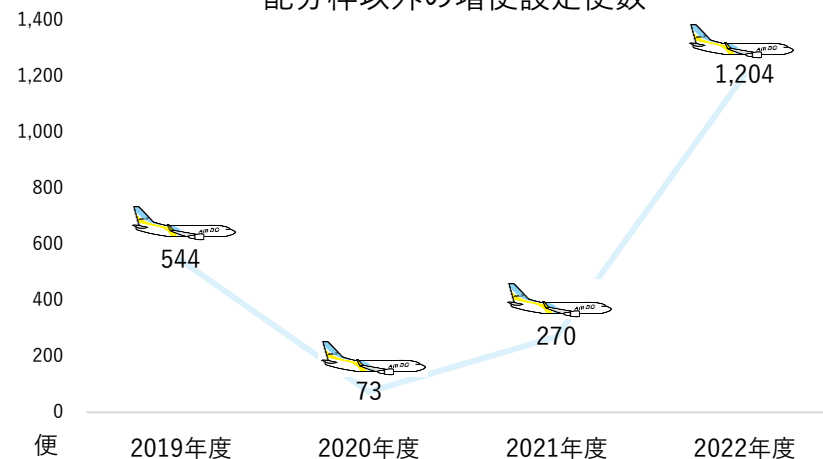
AIR DO

利用者利便の
維持・向上

「北海道の翼」としての使命感



配分枠以外の増便設定便数



コロナ禍における対応

利用者利便の
維持・向上

やむを得ず需給調整を実施するものの、路線単位では最低1往復/日は運航する等、減便率を最小化

中型機並びに小型機の2機種体制を維持し、機材小型化による安定的な運航を推進

他社減便等で発生した空き枠を活用した積極的な増便対応とお客様ニーズへの対応

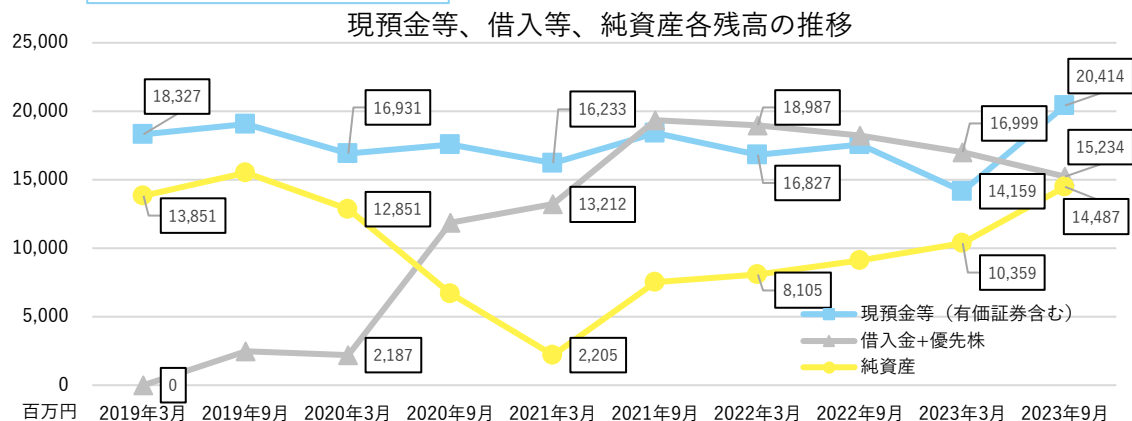
※1 羽田発着枠配分基準検討小委員会(第1回) P40「国内線の減便の状況について」より

コロナ禍が、航空会社の経営、競争状況や航空ネットワーク網に与えた影響及び回復に向けた対応



経営の再構築

生き残りをかけた改革



将来投資等の見直しの必要性

機材投資

システム投資

中長期課題

コロナ禍における対応

経営の再構築

- ・コスト削減（危機克服構造改革、機材数の見直し・契約の見直し、雇用調整助成金の活用等）
- ・収入機会の拡大と増収施策（旅行販売の拡大や2022年度以降の生産量の拡大等）

- ・雇用の維持（地域出向や他業種の請負等）

- ・地域との連携（地域とのコラボレーション、ECサイトの立ち上げ、北海道室の設置等） ※P10参考

現預金の減小に伴う借入金120億円及び債務超過回避のための優先株70億円発行

ソラシドエアとの共同持株会社の設立による経営資源（人材、知見、施設等）の効率的な活用

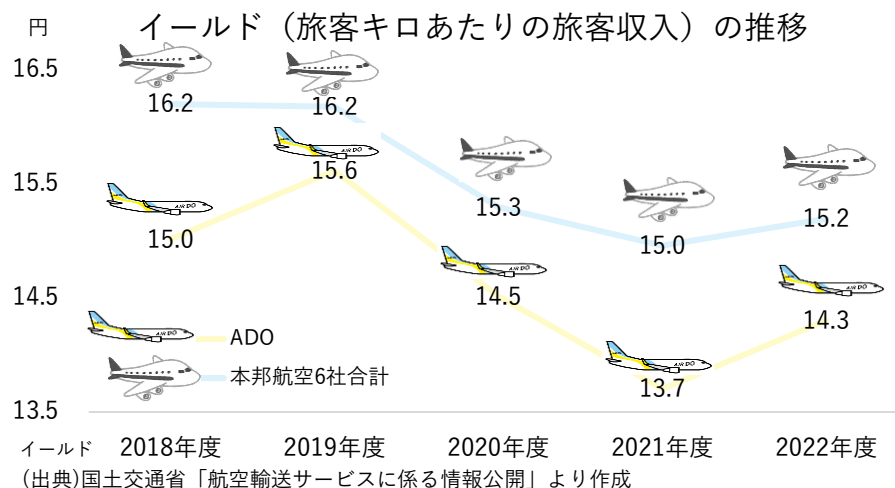
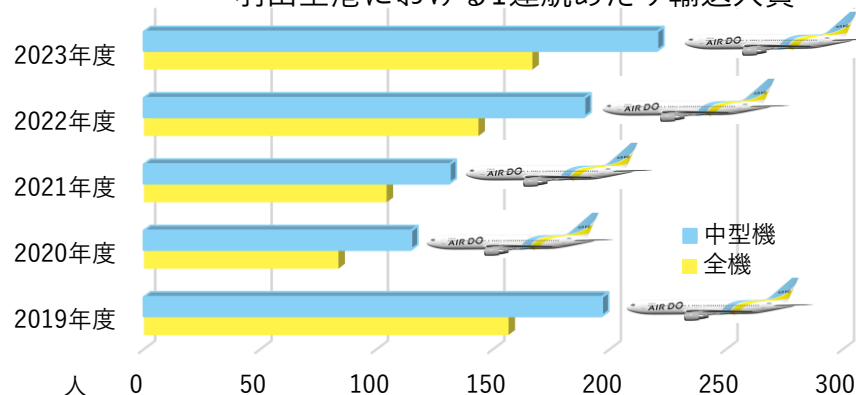
希少な羽田空港の発着枠（羽田路線）を活用するための取組み



希少な羽田空港の発着枠

- ・ 1 便当たりの輸送人員の拡大
- ・ 運賃の低廉化

羽田空港における1運航あたり輸送人員



利用者利便の維持・向上

1 便当たりの輸送人員の拡大を図り羽田枠の効率的かつ有効な活用

- ・ 路線需要に応じた中型機並びに小型機の 2 機種運航
- ・ 高搭乗率

良質なサービス、運賃の低廉化の努力

安全の確保

希少な羽田空港の発着枠（羽田路線）を活用するための取組み



AIR DO

インバウンド旅客への対応

今後の成長課題として継続強化

情報提供・ご案内

デジタルサイネージ
多言語音声翻訳システム
ピクトグラム
その他



予約・販売

当社Webサイトの多言語化
Online Travel Agentとの連携

運賃

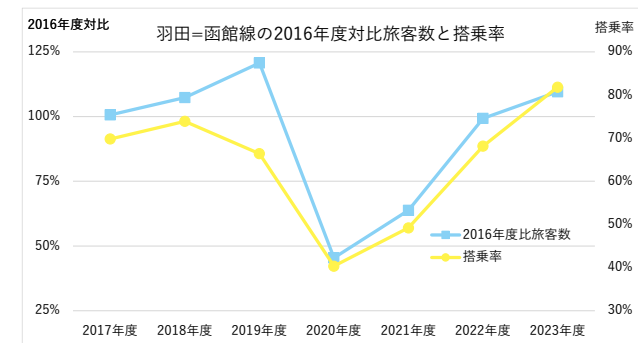
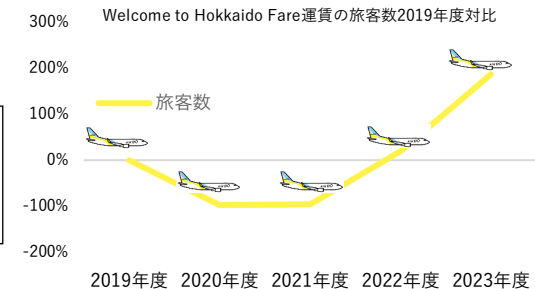
Welcome to Hokkaido
Fare運賃

鉄道との関係性

顕著な変化はない

☞ 2016年3月北海道新幹線開業以降、影響が想定される路線である羽田＝函館線においては、競争環境等の顕著な変化は見られない。旅客数はコロナ禍を除き増加傾向であるとともにイールドも同水準を維持している。

☞ 一方で、当社は鉄道などの代替手段が少ない路線がほとんどであり、「北海道の翼」として、地域に根差し、利用者利便に貢献をしている。





脱炭素

重要性は理解しており、個社として脱炭素化の推進・貢献のため一層の努力は惜しまないものの、その取り組みは競争するものではなく、業界全体で協力して取り組むべきものと認識

脱炭素 課題

航空機の運航

運航に伴うCO2排出量を削減するべく運航の各フェーズにおいてさまざまな工夫を実施

出発前	駐機中	上昇中	巡航中	降下中	到着・到着後
・ エンジンの本流い ・ エンジン洗浄時期の最適化 ・ 機内圧縮空気の最適化 ・ 燃料効率を考慮した航空計画の策定	・ APU (補助動力装置) 利用削減 ・ エンジンスロットルからの自家発電	・ Normal Climb	・ 飛行速度の調整 ・ CDR (Conditional Route)	・ 遅延APR Approach (遅延着陸) ・ Reduced Flap L/D ・ Idle Reverse ・ One Engine Taxi ・ 飛行経路ソフトバンク	・ Delayed Flap & Gear Approach

※下掲の4点の運航改善策実施により、2022年度は、取り組み前対比2,352tのCO2を削減 (B737-700 羽田-新千歳間 252便分に相当)。

航空機技術革新

従来機材対比15%の燃費改善および40%の騒音削減が期待される次世代機の2026年度以降の導入に向けた検討



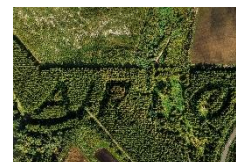
SAFの活用の検討

森林の保全・育成を目的とした排出権取引に関する取り組み



自然資源・生物多様性保全に向けた取り組み

- ・ 地域の森林・自然保全
- ・ 地域のクリーンエネルギー創出への参画



エアドゥの森(千歳)



知床半島の海岸線を歩くヒグマ。



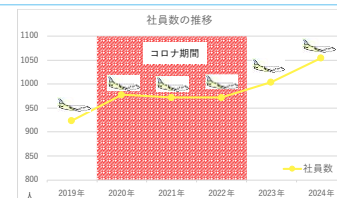


人的リソースへの対応

「人財」が最も大切な財産であるという考えに基づいた「人財」への積極的かつ継続的な投資

人財投資

- ・雇用の維持・向上
- ・賃金、処遇改善



人財投資

運航乗務員の自社養成など、地域とも連携を図りながら人材確保のスキームを構築



人財の効率化

社内応援体制の整備と啓蒙活動の推進



人財の効率化

ソラシドエアとの共同持株会社の設立による人財資源の効率化



人的リソースへの対応



基本的な考え

2025年以降の発着枠配分は5年間延期するべき

段階的な評価起点が必要な場合

少なくとも新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが第5類感染症に引き下げられた2023年度を評価起点とするべき

配分の見直しがある場合

- ・ 羽田空港の発着枠が相対的に少ない特定既存航空会社を支援・優遇する視点
 - ① 特定既存優遇枠・地方枠の回収除外
 - ② 特定既存航空会社により多く配分
- ・ 客観性・透明性のある評価指標・配点基準による配分の見直し
- ・ 衡平かつ継続的な競争環境の維持・促進

評価指標 1

①全国規模での航空ネットワークの形成・充実への貢献

- ・ 地方路線（幹線及び羽田路線以外の路線（離島路線を含む））の路線数 各 6 点
- ・ 地方路線（幹線及び羽田路線以外の路線（離島路線を含む））の便数 各 6 点

☞ 地方創成・地方誘客も含めた航空ネットワークの形成・充実という点については意義を感じるものの、評価項目が地方路線の「路線数」と「便数」に重複感があり、それぞれの配点が大きく、見直しが必要なのではないか。

評価指標 2

②羽田空港と地方の空港との間の路線の形成・充実への貢献

羽田路線の全路線便数に占める幹線以外の路線の便数の割合が各社間平均を上回っていること

☞ 当該指標においては、「幹線」と「幹線以外」の路線で分けられているが、「幹線以外」の路線については、路線間の旅客数の差が大きく、それらを一律に評価することでなく、路線ごとの旅客数の観点を入れた評価が必要なのではないか。

評価指標 3

航空会社の効率的な経営の促進の観点からの評価項目

従業員一人あたり営業収益の過去5年間平均便数の割合が各社間平均を上回っていること

☞ 従業員一人あたりの営業収益の意義は経営の効率性の観点から広く一般的であるものの、人財の獲得競争、人財への投資等の観点より、見直すタイミングが必要ではないか。



地域価値創造・CSR

目次 ● 概要

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

目次 ● 概要

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

CSR - 企業の社会的責任 -

目次 ● 概要

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

目次 ● 概要

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

CSR - 企業の社会的責任 -

目次 ● 概要

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

目次 ● 概要

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

CSR - 企業の社会的責任 -

目次 ● 概要

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

目次 ● 概要

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。

企業と社会の持続的な成長に向けて、内部管理体制の整備・運用、ステークホルダーとの協力の実現、CSR活動の充実に取り組んでいます。